

### 3 まとめ

#### I 回答者の属性について

調査の回答者の性別(問1)では女性の回答が男性よりも多くなっており、年齢(問2)では回答者全体の約3割(33.4%)が65歳以上となっている。

居住地域(問3)では、龍ヶ崎地区が22.5%で最も高く、次いで「馴染地区」が12.8%、「八原地区」が10.9%となっている。

居住年数(問4)では、「20年以上」が72.8%、「10年以上20年未満」が14.5%と、回答者全体の9割近く(87.3%)が居住年数10年以上となっている。

前住地(問7)では、「茨城県内(龍ヶ崎市以外)」が30.0%、「ずっと龍ヶ崎市」が24.5%、「千葉県」が14.9%となっている。なお、回答者全体の約7割(74.2%)が市外からの転入者となっている。

就労状況(問9)では、「無職(主婦・夫、学生を含む)」が34.1%、「正社員」が30.8%、「パート・アルバイト」が17.7%となっている。なお、「正社員」「契約社員・派遣社員」「パート・アルバイト」と回答した人の勤務地(問10)では、「茨城県南部」が37.8%、「龍ヶ崎市内」が35.5%、「東京都」が11.5%となっており、通勤に利用する主な交通手段(問12)では、「車」が73.3%、「電車」が16.4%となっている。

#### II 市全体の印象について

龍ヶ崎市の住み心地(問13)では、「住みよい」と感じている人(「住みよい」・「どちらかといえば住みよい」)が84.0%と、前回調査(令和3年度)とほぼ同程度となっている。年齢別にみると、

20歳～29歳以外の年齢層において、「住みよい」と感じている人が8割を超えている。

龍ヶ崎市の良いところ好きなところ(問14)では、「豊かな自然がある」、「買い物などの日常生活が便利である」、「災害の危険性が少ない」が上位に挙げられている。なお、前回調査と比べて、「落ち着きと安らぎがある」が最も増加(5.6ポイント)している。

龍ヶ崎市の物足りないところ、嫌いなところ(問15)では、「交通の便が悪い」、「将来の発展が期待できない」、「活気に乏しい」、「都市としての個性や特徴がない」が上位に挙げられている。なお、「交通の便が悪い」(45.3%)については、設問を追加した平成30年度以降すべての調査で最も割合が高くなっている。

また、年齢別にみると、20歳～24歳、25歳～29歳、30歳～34歳と若年層において「多種多様な働く場がない」が3位以上に挙げられている。問10においても勤務地が市内と回答した方が4割未満(35.5%)であったことを踏まえると、若い世代が安心して暮らしていくためには、市内での雇用を創出するための取組が重要な要素であると考えられる。

「龍ヶ崎市で一番好きな場所やモノ」に関する調査結果では、前回と同様に「龍ヶ岡公園(たつのこやまとその景色を含む)」、「牛久沼(沼から見える夕日や富士山を含む)」が上位に挙げられており、問14で回答が多かった「豊かな自然がある」との関連がみとれる結果となった。

まちへの愛着度(問17)では、愛着を感じている人(「いつも感じている」・「時々感じている」)が61.3%と半数を超えているものの、まちの推奨意欲(問18)では、NPSの手法により集計した結果をみると、「推奨者」が9.5%、「中立者」が19.7%、「非推奨者」が70.8%で、NPSは-61.3となっており、前回調査からさらに低い結果となっている。市民が愛着を持ち続けながら、推奨意欲を高めていくために、さらなる魅力の創出を図るとともに、今ある魅力を再発見できるような効果的な情報発信やイベントの開催等に努めていくことが求められる。

龍ヶ崎市への定住意向(問19)については、住み続けたいという人は平成26年度の調査以降、約8割と高い水準で推移している。

### Ⅲ 龍ヶ崎市での暮らしについて

現在の龍ヶ崎市での暮らしについて(問 20AB)では、マトリクス図でみると『重点改善項目』(=市の中でも優先的に改善が必要な項目)として、「市内の公共交通機関(鉄道やバスなど)での移動の利便性」「駅や大規模商業施設などを中心としたまちづくり」等が挙げられている。

問 15 の「龍ヶ崎市の物足りないところ、嫌いなところ」の回答でも「交通の便が悪い」(第1位)や「活気とにぎわいが少ない」(第3位)が上位に挙げられていることから、公共交通の利便性向上や駅前等のにぎわいづくりについては、市民のニーズは高いものの満足度が低い状況がうかがえる。

また、「お年寄りが生活しやすい施設・サービス」「病院・医院の数と夜間・休日などの医療サービス体制」についても、重点改善項目に挙げられており、健康づくりや地域医療体制についても市民の関心が高いことがうかがえる。

### Ⅳ 龍ヶ崎市のまちづくりについて

#### ■子育てしやすいまちであるかについて

「子育てしやすいまちである」と感じるか(問 21)では、“子育てしやすい”(「子育てしやすい」、「どちらかといえば子育てしやすい」と回答した方が40.3%と、前回調査に比べて8.0ポイント低くなっている。また、「分からない」と回答している方も7.6ポイント増えている。

特に、35歳～39歳といった子育て世代に当たる年齢層に着目すると、“子育てしやすい”と回答した割合が、19.0%と相対的に低く、「分からない」と回答した割合が、69.0%と最も高くなっている。子育て世代の満足度を高めていくために、土台となる経済的支援や預かり支援などの取組を継続しながら、多様なニーズを的確に見極め、切れ目ない支援を提供していくことが求められる。

#### ■市民活動やボランティア活動、まちを良くする活動について

参加したことのある市民活動・ボランティア活動(問 22)では、「清掃・環境美化活動」が51.5%、「区・自治会・町内会等の活動」が49.3%、「子ども会活動」が23.5%となっている。

龍ヶ崎市をよくする活動にどの程度の気持ちで参加したいと思うかをNPSの手法を参考にみると、(問 23)では、「推奨者」が13.0%、「中立者」が16.4%、「非推奨者」が70.7%で、NPSは-57.7となっている。

#### ■将来なっしてほしいまちのイメージ

龍ヶ崎市が将来なっしてほしいまちのイメージ(問 24)では、「医療体制や福祉サービスが充実したまち」が60.6%、「交通や買い物などが便利なまち」が59.0%、「災害に強く、犯罪が少ないまち」が49.0%となっており、居住地区別にみても、すべての居住地区において、これらの項目が3位以上に挙げられている。

## V その他、個別の課題について

### ■ 龍ヶ崎市の人口減少について

龍ヶ崎市の人口が減少していくことについて(問 25)では、不安や危機感を“感じている”(「不安や危機感を  
感じている」「どちらかといえば不安や危機感を  
感じている」と回答した方が、67.8%となっており、“感じていない”(「不安や危機感を感じていない」「どちらか  
といえば不安や危機感を感じていない」と回答した方(19.8%)を大きく上回った。どのような不安や危機感を感じているか(問 26)では、「身近な店舗など、商業やサービスの撤退」(65.6%)、「電車やバスなどの公共交通機関の縮小」(62.9%)、「社会保障費の負担増加」(50.1%)が上位に挙げられている。

人口減少は避けられない中でも市民の不安を払拭していくために、減少を緩やかにしていくことや、住みやすく魅力を感じることができるまちづくりを進めていくことが重要な課題となっている。

### ■ 日頃の運動・スポーツ活動について

日頃の運動について(問 27)については、「週1回以上、スポーツや運動をしている」と回答した方は 41.8%だが、「1回 30 分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している」と回答した方は 31.8%に落ち込んでいる。特に、中年層において数値が低いことから、仕事や子育てで時間が確保しにくい実態がうかがえる。健康長寿社会の構築に向けては、市民の運動習慣を確立することが重要な要素の一つであり、多様なライフスタイルに合わせた運動機会の創出、意識の醸成をしていくことが求められる。

### ■ 市役所からの情報発信等について

市役所から発信される情報のうち、必要とする情報は十分に得られているか(問 28)では、“得られている”「十分に得られている」、「おおむね得られている」が 64.2%と、前回調査と比べて 3.3 ポイント下がっている。

市役所から発信される情報を得る主な手段(問 29)では、「広報紙「りゅうほー」」が 87.3%、「市公式 LINE」が 40.5%、「市公式ホームページ」が 30.4%となっている。「市公式 LINE」は前回調査と比べて 28.0 ポイント高く、市公式 LINE の浸透度が大幅に向上していることから、デジタルを活用した身近な情報発信ツールとして、より効果的な情報発信に努めていくことが求められる。

### ■ 流通経済大学との連携事業(龍・流連携事業)について

龍・流連携事業の認知度(問 30)では、「知っている」と回答した方が 37.8%と、前回調査に比べて 1.2 ポイント高くなっているが、参加の有無(問 31)では、参加したことがある(「定期的に参加している」、「定期的ではないが参加したことがある」と回答した方が 11.4%と、前回調査より 2.5 ポイント低くなっている。設問を追加した平成 28 年度以降、前回調査までは増加していたが、今回調査で初めて前回調査を下回る結果となった。

### ■ SDGsについて

SDGsの認知度(問 32)では、“知っている”(「よく知っている」、「おおむね知っている」と回答した方が 61.1%となっており、また、SDGsを意識した生活や行動(問 33)についても、“意識している”(「いつも意識している」、「まれに意識している」と回答した方が 59.1%となっている。「認知度」、「意識した生活や行動」ともに前回調査より大幅に増加しており、SDGsが市民に浸透していることが分かる結果となった。年齢ごとに比較すると、高齢になるにつれて認知度や意識が低下する傾向がみられることから、広い世代に向けた普及促進を図ることも必要である。

### ■ 公共施設・その他について

龍ヶ崎市の公共施設の取組を知っているか(問 34)では、「知らない」と回答した方が 74.5%となっているが、どの程度関心があるか(問 35)では、関心がある(「非常に関心がある」、「少し関心がある」と回答した方が 60.9%となっており、関心がある市民に情報を届ける工夫が必要となる。

コミュニティセンターの利用頻度(問 37)では、「利用したことはない」(59.6%)の割合が最も高く、次いで「1年間に1回程度」(19.7%)となっている。